

第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会（第24期・第2回）

議事録

日時：平成30年10月16日（火）15：00～17：00

場所：日本学術会議6階6-A（1）会議室

出席者：大倉典子、加藤昌子、嘉門雅史、須山章子、谷口倫一郎、野尻美保子、森田康夫

欠席者：浅見真理、中川聡子、藤井良一、森下信、渡辺美代子、

（敬称略）

議題：

1）前回の議事録の確認

文言の一か所修正して承認された。

2）関連会議等について

野尻幹事より10月13日に開催された男女共同参画学協会連絡会シンポジウムでの大坪氏の講演から、「無意識のバイアス」に関わる課題や世界の動向が報告された。

資料7．第三部ダイバーシティ資料

資料4．女性「数学が苦手」ステレオタイプの影響について考えるー（森永康子）

資料5．A Threat in the Air (Claude N. Steele)

資料6．Problems in the pipeline: Stereotype threat and women's achievement in high-level math courses (Catherine Good, Joshua Aronson, Jayne Ann Harder)

本報告に関連した意見：

1. 「無意識のバイアス」を取り除いていく意識改革のためには、若い世代（高校生、中学生、小学生）からの教育が必須。加えて、親の影響が大きいので親世代への働きかけが重要。進路指導に影響する教員に対しても対策が必要。
2. 女性にとって、理系に進むメリットを伝えることが必要。
3. 科学甲子園（ジュニア）における数学の男女差はない。
4. 科学、数学等における女性の苦手意識（バイアス）を克服するために

重要な年代は？中学生くらいが重要な世代かも。

3) 理工系における課題の抽出について

1. 理工系ジェンダー・ダイバーシティの課題に関する代表的な既存調査結果について（資料2．浅見幹事レポート）検討し，課題の抽出を行った。

＊データの数値は，条件や処理方法なども注意してみる必要はあり。

2. 嘉門委員より，土木学会等の最近の活動報告が行われた（資料3）。

土木学会の女性割合は工学系の学会における女性比率ではほぼ平均値（5.2％）であるが，近年，「土木技術者女性の会」を中心にジェンダー問題により積極的に取り組んでいる。行政の施策や企業のトップダウンの取組みが効果を挙げている。

3. そのほかの調査データ，論文等についてもさらに検討することとした。

4) その他

1. 10月28日開催のシンポジウム，医療界における男女共同参画の案内があった（資料8．シンポジウムチラシ）

2. 今回の資料および追加資料（電子ファイル）を委員に送付する。これらを検討し，専門分野，世代，地域性の観点も考慮しながら，各委員が意見をまとめる。

3. 次回は来年1月ごろを予定。会議形態については未定。